

郡上高校から新しい実習生産物をつくろう！！

サトイモ 山口大希 サツマイモ 服部遊太郎 ジャガイモ 松山大祐

1 設定理由

私たちの郡上高校では、椎茸や自然薯などが栽培され12月の販売会で販売されている。そこで私たちは今年から新たな生産物を栽培し、販売会で販売したいと考えた。また新たな農業知識を学ぶとともにイモの成長を調べようと思った。

2 年間計画

サトイモ

1～3月	品種計画	8月	除草、水やり、土寄せ
4月	芽だし、畝作成	9月	収穫計画
5月	定植	10月	収穫実施、貯蔵
6月	マルチング	11月	販売会計画 準備
7月	土寄せ	12月	販売会

3 実施項目

サトイモの管理

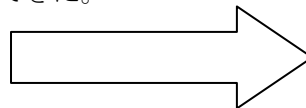
芽だし

ペットボトルを切り、播種トレイとして土を入れ、種芋の芽だしを行った。種芋の品種は石川早生と八つ頭。芽出しに必要な温度は25℃から35℃なので、4月は適さない。そのため、インキュベーターを30℃に設定し、そこで芽だしをした。



約10日間ですべての種芋から芽が出てきた。

高さ的には2～3cmほどである。



定植

60 cmの間隔をあけて、種芋を定植。定植の時には深さ 15 cmの穴をあけて埋める。

石川早生を 19 個、八つ頭を 10 個の種芋を定植した。

定植して 5 日ほどで芽が出てきた。



出芽

定食後の管理

追肥

肥料は園芸化成（8-8-8）をサトイモの株間に紙コップ 6 分の 1 ぐらいずつ追肥をした。株の成長が遅いものがあつたら適度にあたえるようにした。

また液肥（HB101）もあたえた。花工場というのを使った。リン酸が成分に多く含まれており、リン酸は実の生育をよくするので使用した。水 10ℓあたりに約 10mlをまぜて使う。



追肥

土寄せ

土寄せの目的は株の倒伏防止、除草、根や地下茎の発育促進などがある。



土寄せ

水やり

里芋は乾燥に弱く水分を良く吸収するので、夏場は毎日行う。

昼間の暑い時間帯には与えないほうがよい。

しかし夏休み中に毎日灌水ができず、夏休み明けには葉が黄色くなり水分不足で枯れているものがあつた。

収穫 貯蔵

収穫の時には、株元を鎌やはさみで切り、株ごと土から掘り起こす。親イモと子イモが離れないようにする。

収穫した芋は販売会の 1 週間前まで畑に穴をほりそこに埋めて貯蔵した。



収穫

11 月下旬に収穫を実施。収穫量は石川早生が **197 個**、八つ頭が **10 個** だつた。合計で **7.5 kg** 収穫できた。しかし八つ頭は収穫量が非常に少なかつた。原因として考えられるのは、追肥が少なかつた。水分不足。害虫被害が考えられる。

品種	重さ	個数
石川早生	7.0 kg	197 個
八つ頭	0.5 kg	10 個

販売会

値段は、市場は182～381円/kgが相場だが、品質のばらつき等があるため600g - 60円と400g - 40円に設定した。合計で16袋作った。販売会では、売れるか心配でしたが、お客様が安いと喜んで買ってください、完売することができて嬉しかったです。「これはやわらかいの？」という質問が来たときに自分の家で試食してみたのでしっかり答えることができた。自分で収穫したものを一度自分で食べてみるのも大切だとおもった。



実習生産物販売会

	600g 60円	400g 40円
石川早生	7袋	9袋

まとめ

今年は今までにない生産物を栽培してみて、一から自分たちで計画し実行したのでわからないことが多くて大変だった。収穫量が少なく、実が小さいものも多かったので課題も多く見つかった。販売会で販売するという目標で一年間取り組んできたが、しっかり販売することができたし、販売会でお客様が安いと喜んで買ってください、完売という成果を挙げることができた。サトイモの栽培をやって良かったと思った。

課題

- ・ 里芋の管理計画がしっかりたてられていなかったなので、定植前にしっかり調べておくべきだった。
- ・ 芽だしを開始する時期が遅かった。
- ・ 害虫による食害があったため害虫対策を調べて行うべきだった。
- ・ 品種についてしっかり調べるべきだった。特に失敗した八つ頭について調べるべきだった。
- ・ 実が小さいものが多かったなので、もっと追肥をするべきだった。
- ・ 水分不足で枯れるものがあったので、毎日灌水すること。特に夏休み中は灌水日数が少なかった。
- ・ 収穫する時期が少し遅くて、収穫したときにサトイモの実が食害にあっていたため、もう少し収穫時期を正確に見極めるべきだった。